

薬剤部 部署の特徴



薬学的アプローチで日常診療を変える

薬剤部の基本情報

主な業務指標	
病棟薬剤業務実施加算1	届出済
病棟薬剤業務実施加算2	届出済
薬剤管理指導料算定件数	2,604件/月（2024年度）
抗がん剤無菌調製件数	外来 2,494件/月、 入院1,080件/月（2024年度）
高カロリー輸液無菌調製件数	803件/月（2024年度）
薬物血中濃度モニタリング件数	投与設計564件/月（2024年度）
実務実習生受け入れ人数	54名（2024年度）

専門・認定薬剤師の研修施設認定

- ・日本医療薬学会 認定薬剤師制度研修施設
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
- ・日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設
- ・日本医療薬学会 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（基幹施設）
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修施設
- ・日本病院薬剤師会 HIV感染症薬物療法認定薬剤師研修施設
- ・日本臨床薬理学会 薬物療法専門薬剤師研修施設

スタッフ

職員	
教授・薬剤部長	1名
准教授・副部長 (薬学部所属1名含む)	2名
副部長	3名
講師・助教	5名
主任	10名
薬剤師 (うちレジデント8名)	65名
技術補佐・事務補佐	15名

(2025年4月時点)

認定・専門薬剤師

日本医療薬学会

- ・指導薬剤師 (9名)
- ・専門薬剤師 (21名)
- ・がん指導薬剤師 (1名)
- ・がん専門薬剤師 (4名)
- ・薬物療法指導薬剤師 (1名)
- ・薬物療法専門薬剤師 (1名)

日本病院薬剤師会

- ・病院薬学認定薬剤師 (23名)
- ・がん薬物療法指導薬剤師 (1名)
- ・がん薬物療法認定薬剤師 (3名)
- ・感染制御専門薬剤師 (1名)
- ・精神科専門薬剤師 (1名)
- ・精神科薬物療法認定薬剤師 (3名)
- ・HIV感染症専門薬剤師 (1名)
- ・妊婦・授乳婦薬物療法専門薬剤師 (1名)

薬学教育協議会

- ・実務実習指導薬剤師 (16名)

日本化学療法学会

- ・抗菌化学療法認定薬剤師 (3名)

日本精神薬学会

- ・精神薬学会認定薬剤師 (1名)

日本臨床薬理学会

- ・指導薬剤師 (1名)
- ・認定薬剤師 (1名)

日本臨床腫瘍薬学会

- ・外来がん治療専門薬剤師 (1名)
- ・外来がん治療認定薬剤師 (1名)

日本糖尿病療養指導士認定機構

- ・糖尿病療養指導士 (4名)

日本アンチ・ドーピング機構

- ・スポーツファーマシスト (2名)

日本病態栄養学会

- ・NST研修修了 (5名)

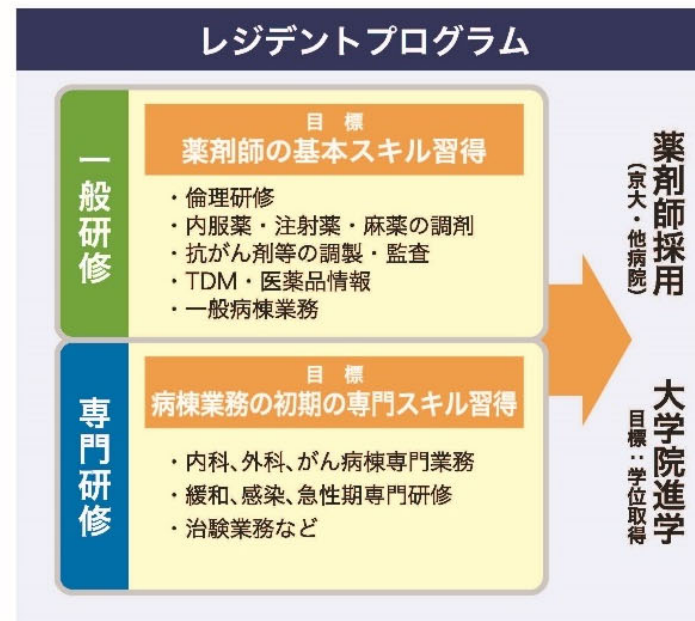
(2025年4月時点)

レジデント制度

薬学教育6年制や薬剤師業務の変化に伴い、卒後薬剤師教育のあり方も変化しています。京大病院では、効果的な新人教育を実施するために、レジデント制度を開始しています。調剤業務の習得を目的とした新人研修から、病棟業務を含めた基本的な薬剤師スキルの習得を目指す教育を行っています。

- ▶ 新人採用（中途採用を除く）は全てレジデント
- ▶ 特定有期薬剤師として雇用し、以前と同じ給与を支給
- ▶ 2年間のレジデントプログラム終了後に薬剤師として採用
- ▶ 病棟薬剤業務を含む全般的な基本的スキルを習得

*特定有期雇用薬剤師として雇用されるため、教職員就業規則に従う



給与・待遇

基 本 給	本学給与規程で適用（特定有期雇用職員） 約 23.1 万円（6 年制大学卒業）
各 種 手 当	通勤手当、住居手当、超勤手当、期末手当
勤 務 時 間	8：30～17：15（週 38 時間 45 分） 残留当番・日直・宿直勤務あり
休 日	週休 2 日制、年次有給休暇、特別休暇、病気休暇
保 険	文部科学省共済組合、雇用保険、労災保険



教育プログラム

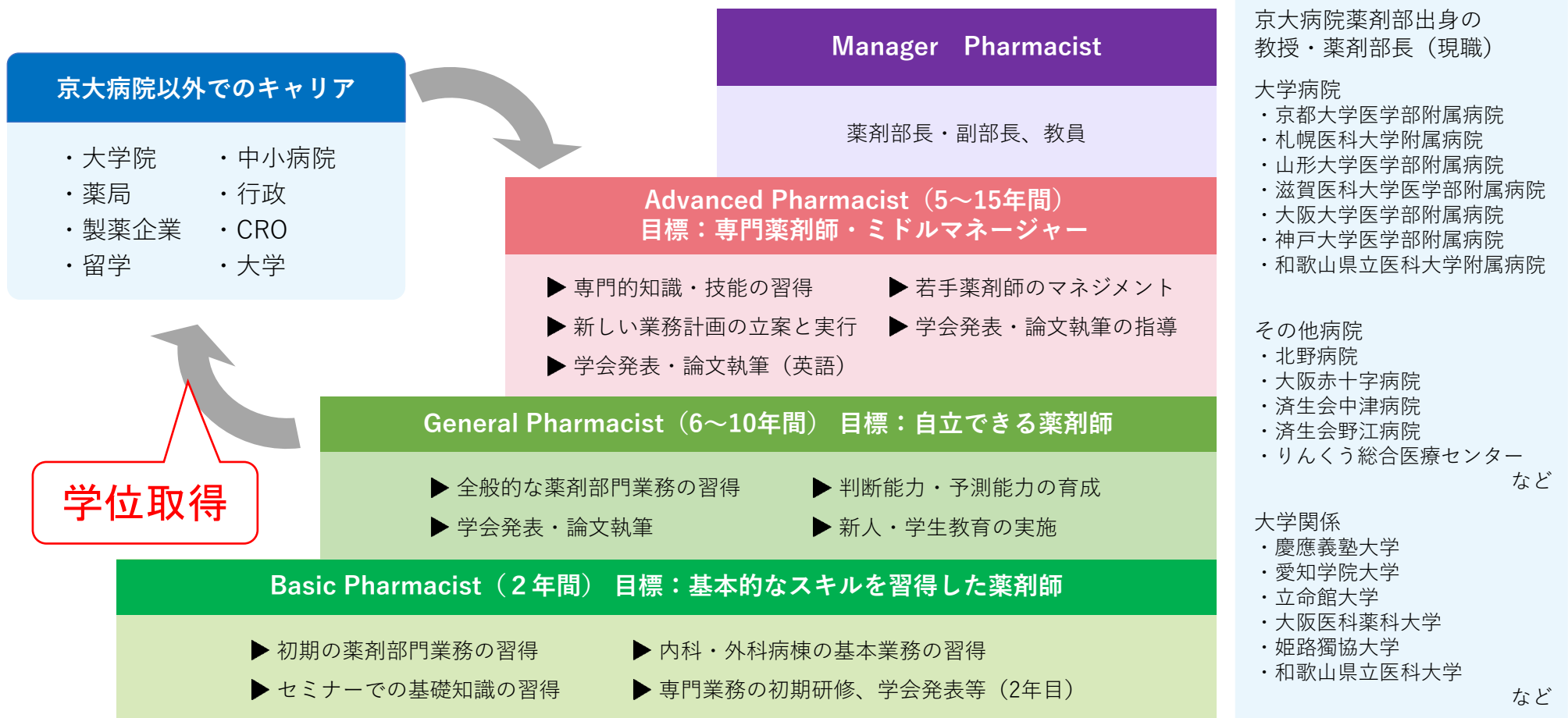
(一例)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
レジデントプログラム 一般研修	午前 午後 プラスα	初期研修	調剤・監査(内服)			調剤・監査(注射)			ケモ調製		セントラル配属 (注射・ケモ)			
	研修課題	マニュアル精読	病棟研修導入			病棟研修			DI / TDM			病棟兼任		
	勉強会 (一例)	電カル使用法	処方監査	薬品管理	医療安全	抗がん薬調製	病棟業務	インスリン	TDM		疼痛管理		成果報告会	
	学会			フレッシュズ カンファランス(参加)				医療薬学会 (参加)			日病薬近畿 学術大会(参加)		レジデント フォーラム	
レジデントプログラム 専門研修	午前 午後 プラスα	セントラル配属(午前 or 午後)												
	研修課題	内科病棟／外科病棟／がん病棟から一つ			内科病棟／外科病棟／がん病棟から一つ			内科病棟／外科病棟／がん病棟／治験から一つ			緩和			
		病棟兼任	DI / TDM			ICT								
		研究テーマ決定	論文紹介	症例発表			学会発表要旨	論文紹介	症例発表			学会発表	成果報告会	
		症例報告 添削												
	勉強会 (一例)	臨床研究	RMP	吸入薬	栄養			薬物動態	ポリファーマシー	感染		周術期	診療報酬	
学会				Future Forum (参加)				医療薬学会 (発表)			日病薬近畿 学術大会(発表)		レジデント フォーラム	
		*職員への採用試験												

京大病院薬剤部のレジデントプログラムの特徴

- ・セントラル、病棟、学術的な取り組みをバランス良く！
- ・ポートフォリオを取り入れた体系的で充実した研修プログラム！
- ・大学病院ならではの症例を経験してキャリアアップ！
- ・薬剤師業務だけでなく、研究も手厚くサポート！

薬剤師のキャリアパス支援

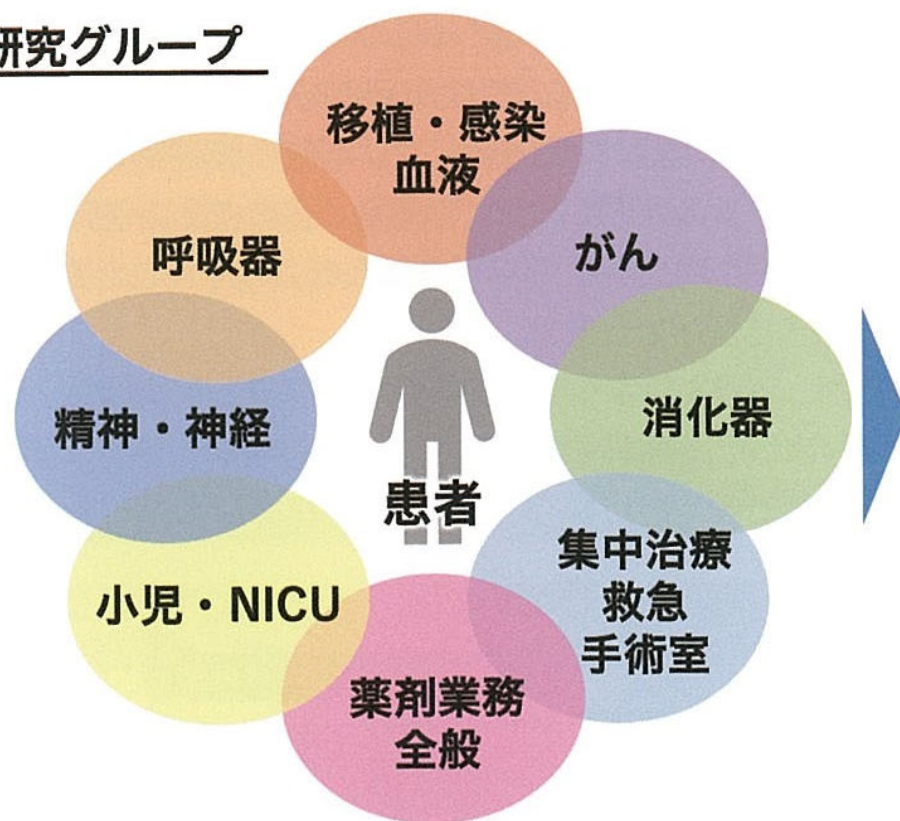
まずは臨床経験を多く積ませて自立して判断のできる薬剤師へと成長させ、その後に学位や専門薬剤師の取得を支援する。さらに、女性薬剤師の活躍を促進するためにも、薬剤師の働き方改革にも力を入れる。最終的には、マネジメント教育も取り入れて、全国へ教授・薬剤部長などの輩出を目指す。



研究活動

当院の薬剤師は研究活動にも積極的に取り組んでいます。血中薬物濃度解析などを中心に、業務内容や薬物療法の客観的評価を行い、多数の学会発表をしています。対象疾患ごとに研究グループを組織し、教員がサポートしながら、論文発表も積極的に行っています。また、医学研究科や薬学部・薬学研究科に所属する学生と共に幅広い研究を推進しており、このような活動を通じて、博士の学位を取得した人もいます。

研究グループ



薬物療法における クリニカルクエスチョン



薬剤部の主な業績

主な原著論文 (2024 年)

Kawata M., et. al., Development of extended pharmacokinetic models for propofol based on measured blood and brain concentrations. *Sci Rep* 14, 6326, (2024).

Umemura K., et. al., Comparison of the safety and cost-effectiveness of nebulized liposomal amphotericin B and amphotericin B deoxycholate for antifungal prophylaxis after lung transplantation. *J Infect Chemother* 30, 741-745, (2024).

Naganawa H., et. al., Influence of ensitrelvir or nirmatrelvir/ritonavir on tacrolimus clearance in kidney transplant recipients: A single-center case series. *J Pharm Health Care Sci* 10, 37, (2024).

Yokoi M., et. al., Subjective symptoms are triggers for the detection of immune checkpoint inhibitor-induced interstitial lung disease and associate with disease severity: a single-center retrospective study. *J Pharm Health Care Sci* 10, 52, (2024).

Sugimoto M., et. al., Population pharmacokinetic modeling of posaconazole in Japanese patients receiving fungal prophylaxis. *Ther Drug Monit* 46(5), 611-618, (2024).

Aihara R., et. al., Investigation of severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 infection status in solid organ transplant recipients treated with tixagevimab/cilgavimab. *J Infect Chemother* 30, 1222-1227, (2024).

Kawakami T., et. al., Comparison of safety and effectiveness between etanercept biosimilar LBEC0101 and reference in patients with rheumatoid arthritis in real-world data using the KURAMA cohort. *Mod Rheumatol* 34, 1135-1141, (2024).

主な学会発表 (2024 年)

西郷雅美子：注射用抗菌薬から経口抗菌薬への早期切り替えプロトコルの有用性評価．第 45 回日本病院薬剤師会近畿学術大会，2024 年 1 月 27-28 日 (和歌山)．

ト部裕月：肺移植患者のバルガンシクロビル予防投与の継続に対する NUDT15 遺伝子多型の影響．日本薬学会第 144 年会，2024 年 3 月 28-31 日 (横浜)．

上森美和子：電子トレーシングレポートサービス導入による業務運用の効率化．第 26 回日本医薬品情報学会総会・学術大会，2024 年 6 月 1-2 日 (千葉)．

増田 崇：母集団薬物動態解析による蛋白尿発現患者におけるベバシズマブ体内動態の定量的評価．第 7 回フレッシュャーズ・カンファレンス，2024 年 6 月 15-16 日 (東京)．

島 千晶：TDM の実施によりガンシクロビル治療抵抗性の肺移植レシピエントの治療方針を決定することができた一例．第 98 回日本感染症学会学術講演会 第 72 回日本化学療法学会総会 合同学会，2024 年 6 月 27-29 日 (神戸)．

國津侑貴：レセプトデータを利用した Triple Whammy における NSAIDs 別の AKI リスク評価．第 18 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会，2024 年 9 月 7-8 日 (札幌)．

Yoshiki Katada: Relationship between trough ganciclovir concentration and leukopenia in lung transplant recipients receiving valganciclovir prophylaxis. 22nd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 2024 年 9 月 15-18 日 (Banff, Canada).

石村裕樹：DPYD 遺伝子の希少なバリエーションにより S-1 投与時に重篤な有害反応を認めた舌癌の 1 症例．第 62 回日本癌治療学会学術集会，2024 年 10 月 24-26 日 (福岡)．

Robotic Process Automation (RPA)

RPAとは？

ロボティック

プロセス

オートメーション

Robotic Process Automation の略です

パソコン上で行っている定型業務を自動化できるソフトウェアロボット技術のことです。実体のあるロボットではありません。PCの中だけで動くロボットで、仮想的労働者（デジタルレイバー）とも言われています。
京都大学医学部附属病院 薬剤部では、一部の業務にRPAを活用しています。

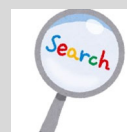
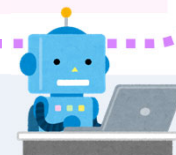
薬剤部で活用しているRPAの例

処方せんの自動発行、発注管理、会議資料の作成補助
腎機能低下患者の抽出および担当薬剤師へメール連絡
特定患者の抽出および帳票印刷、指導書の自動作成

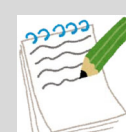


業務の効率化、医療の質向上、収益の向上に繋がる！

<RPAでできること>



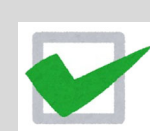
データを検索



データを転記



データを加工



データを判断



ファイルを作成



メールを送信